



# 4

## 高度化する製品含有化学物質規制に対し、OKIの技術を活かしてお客様のニーズに適した製品を提供

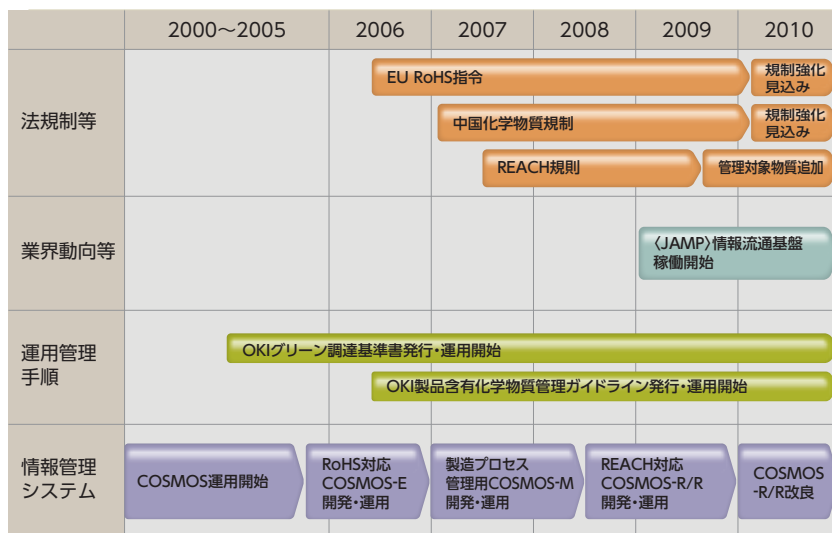
### 製品含有化学物質管理を積極的に推進

近年、EUによるRoHS指令、REACH規則<sup>※</sup>など、製品に対する化学物質規制が急速に高度化しています。また、中国、カナダ、韓国などでも同様の規制が制定されるなど、こうした動きはグローバルに共通しており、製品に含有される化学物質の管理は、企業における重要な経営課題となっています。

OKIグループは、1998年には製品アセスメント制度を制定するなど、製品含有化学物質に関して早くからマネジメントシステムを構築し、運用してきました。OKIの製品含有化学物質管理の特長は、設計から出荷まで全プロセスの実施項目を詳細に規定していること、化学物質情報の精度を向上させるため、自社で化学物質情報システムを早期に開発・運用し、規制の制定・改正に合わせこのシステムの改善を図っていることにあります。REACH規則の施行に伴い、サプライチェーン全体を通して化学物質情報を把握・管理する必要性が高まっていることから、有害物質を含まない『グリーン調達』の実践からお客様への回答までを支援するシステムとして、「COINServ-COSMOS-R/R(コインサーブコスモスアールツー)」(以下COSMOS-R/R)を2008年度に開発し、社内でも運用しています。

<sup>※</sup>REACH規則：EU域内にて化学品(Chemicals)を製造、輸入する場合には、その製造者、輸入者に登録(Registration)、評価(Evaluation)を義務付け、高懸念物質については、関係当局が許可(Authorization)、さらにリスクの高い物質には、禁止などの制限(Restriction)を設ける規則。

● OKIグループのこれまでの主な取り組み



### COSMOS-R/Rの特長

COSMOS-R/Rは、OKIのネットワーク技術を活かして化学物質情報データベースと製品設計システムを融合。製品の部品構成や設計段階での処理条件などから、社内での製造段階で使用されるはんだなども含めた“製品全体に含有される化学物質量”を自動的に積算し、REACH規則の要求事項への適合性を検証することが可能です。またグリーン調達調査共通化協議会(JGPSSI)およびアーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)が作成した統一フォーマットに対応しており、効率的な情報管理ができます。製品の含有化学物質集計・シミュレーションによる環境配慮型設計を実現するとともに、煩雑なデータ調査・回答・登録などの業務を大幅に効率化させました。2009年4月からは本システムの社外への販売も開始しています。

### 規制への適合性をさらに確実なものとするために

製品含有化学物質規制は、管理対象物質の追加など、強化・改定されることが多く、こうした動きへの迅速な対応が重要です。そのためには、関連規制の正しい理解はもちろんのこと、実際の設計プロセスや生産プロセスを活かしつつ、新しい規制の要求をいかに満たすかを見定めなければなりません。

すなわち、化学物質管理に携わる担当者の現場やモノづくりに対する深い理解が、生きた製品含有化学物質管理の鍵となっています。

2009年度も、各プロセスの運用を考慮し、REACH規則で高懸念物質(SVHC)に指定されている物質への対応を中心に、設計から出荷プロセス、情報提供に至る社内運用ルールを定めた「製品含有化学物質管理ガイドライン」と、化学物質情報を調査するための「グリーン調達基準書」の改訂を実施しました。これらのマネジメントの運用を徹底、定着させることで、これからも安心で安全なモノづくりを進めていきます。